



『出向』『一時帰休』『退職勧奨』『生首切り』を許さない 『団体交渉で厳しく当局を追及』

日刊 動労千葉

84. 7. 15

No. 1690

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

7/10 余剰人員調整策を撤回せよ！

国鉄当局は七月十日、「余剰人員の調整策」と称する事実上の首切り提案を行ってきました。経営政策の失敗を労働者に責任転嫁し、三万人の首を切り、「分割・民営化」に国鉄労働運動を解体せんとする悪辣な攻撃を決して認めることはできません。

動労千葉は七月十一日、断固たる抗議声明を発表するとともに、十二日の団体交渉において当局を厳しく追及しました。

事実上の「生首切り」攻撃

六月五日、当局は「余剰人員対策」と称する、「一時帰休」「関連企業への出向」「退職制度の見直しによる退職勧奨」の三本柱の実施を明らかにしました。

七月十日に至り、当局はこれら三本柱についての具体的な提案を行ってきました。

すなわち、骨子は①一時帰休制は、ごく一部に限ってきた退職前提の休職制度の対象者を55才以下の全職員にまで拡大するほか、新たに50才未満の職員について退職前提の休職制度を導入、②55才以上の在職者について、特別昇給、定昇、ベースアップをなくすことにより勧奨退職の促進、③国鉄の出資企業や下請け企業等へ三年以内に限り職員を出向させる、というものです。

当局は、労使交渉を経て十月十日以降実施し、協定は三年間有効としています。

（提案の細部は交渉ニュース参照）

「余剰人員解消策」なる事実上の「生首切り」提案、国鉄総裁・仁杉の「分割・民営化」発言は、臨調、当局の「国鉄再建」が「再建」はおろか、解決不可能な「国鉄危機」としてより深刻化する中で、国鉄労働者の犠牲のうえにのりきりはかろうとするものであると同時に、そのためにはこれまでの労使慣行、秩序等、一切のワケをぶち壊す決意を示す攻撃です。

いよいよ、国鉄をめぐる決戦期が到来したといわなければなりません。

七月十二日の団体交渉で撤回を要求

十二日に行われた団体交渉において、動労千葉は「余剰人員調整策」の不当性について追及しました。

第一に、現行「年度末における退職者等の取扱いに関する協定」を反古にする「退職制度の見直し」

し」提案は、55才以上の在職者の労働条件を著しく悪化させるものであるとともに現在56才以上の在職者も大きな不利益となるものです。当局の狙いは、全国鉄労働者を55才で退職させることにあります。

第二に、「出向」については「所属長が行う」としているように、当局に都合の悪い労働者を一方的に出向に国鉄から追い出すことを狙った実に悪質な攻撃です。

第三に、「一時帰休」については、復帰時の保証が明確でないばかりか、休職中は「正社員、経営者になることはできず、アルバイトしか認めない」とし、厳しい規制を加えており、若年退職の促進を狙うものです。

提案は、合理化強行の結果としての「余剰人員」について、「退職、出向、休職をせまり、現行の雇用安定協定を無視するもの」との追及に対し、当局は「状況が厳しく、現行の条件が維持できなくなつた」とか、「『余剰人員対策』についていろいろ検討した結果出されたもので、是非協議をお願いしたい」等とのくり返しに終始しました。

動労千葉は「雇用不安におとし入れるような提案は認められない」として強く撤回を求め団体交渉を打ち切りました。

たかに情報

22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1

動労の提言に支持を！

国鉄を国鉄として！
中曽根・福田も支援を約束！

全組合員が結集しよう！
7月3日 民営＝分割化！反対
地本大集会（相模支部）
タカ苑 17:18
7月5-6日 中央大行動
日比谷野音
タカ苑 9:25

いきつく所までいきついた 動労本部革命！

「中曽根、福田も動労提言を支援してくれている」と大ハシヤギ。

（'84・6・29、動労高崎地本高崎サニ機関区支部の情報）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！